

恵庭市運動・スポーツ推進計画事業評価報告書

1. はじめに

本市では、平成28（2016）年度から令和7（2025）年度までの10年間を計画期間とする「恵庭市運動・スポーツ推進計画」に基づき、市民一人ひとりが生涯にわたって心身ともに健康で、豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指し、各種施策を推進してまいりました。

この度、令和8（2026）年度から始まる「第2期恵庭市運動・スポーツ推進計画」の策定にあたり、これまでの取組の成果を客観的に評価し、浮き彫りになった課題を明確にすることで、社会情勢の変化や新たな市民ニーズに対応した、より実効性の高い次期計画を策定するための基礎資料とすることを目的に、本事業評価を実施するものです。

2. 評価の基本的な考え方

（1）評価対象

現行計画に掲げる3つの基本方針に基づき設定された、各基本施策及び関連事業を評価の対象とします。

（2）評価方法

各施策を担当する課が作成した自己評価シートを基礎資料とし、スポーツ振興まちづくり審議会にて毎年度評価を行ってまいりました。

本報告書による評価は、直近年度である令和6年度事業評価を最終的な評価とします。

また、現行計画の中間見直しを行った令和2年度や令和6年度に恵庭市民2,000名へ無作為に実施したアンケートの結果も参考にしています。

（3）評価基準

各施策の達成度を客観的に判断するため、以下の5段階の評価基準を設定していません。

～評 価～

- ・担当課による自己評価
- ・恵庭市スポーツ振興まちづくり審議会委員による事業評価

評価基準	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。
------	--

～課 題～

- ・関連事業に係る進捗状況や評価、市民アンケート結果を踏まえ課題を抽出

～今後の方向性～

- ・担当課及び審議会委員の評価、市民アンケート結果等を踏まえ、今後の方向性を導き出し、第2期計画策定に繋げてまいります。

I 運動やスポーツを通じた健康の保持増進

市民のライフステージに応じた運動・スポーツ機会の提供を通じて、生涯にわたる健康の保持増進を目指す本方針は、計画期間を通じて着実な成果を上げてきました。

特に、幼児期における多様な遊びを通じた運動習慣の基礎づくりや、高齢期における健康寿命の延伸と介護予防（フレイル予防）を目的とした「いきいき百歳体操」などの施策は、コロナ禍においても実施方法を工夫しながら継続され、市民の健康を支える重要な社会基盤として定着しました。

しかしその一方で、就労や子育てなどで多忙な成人期（青年期・壮年期）の世代に対するアプローチが依然として十分でなかった点は、本方針における明確な課題として浮き彫りになりました。

この世代は、特定の時間や場所に縛られるプログラムへの参加が難しく、ウォーキングのような誰もが気軽に取り組める活動への関心が高いというアンケート結果も、この課題を裏付けています。

これらの成果と課題を踏まえ、第2期計画においては、これまでの成功事例を継続・発展させるとともに、世代間の支援の隙間を埋め、生涯にわたる「切れ目のない健康づくり」を実現することが極めて重要なテーマとなります。

基本施策 I - 1 : 子どもの運動やスポーツ活動の推進

生涯にわたる健康な生活の基礎を築く上で最も重要な子ども時代において、本計画の施策は重要な役割を果たしました。

特に幼児期においては、保育園や子育て支援センター等での遊びを通じた運動機会の提供が定着し、子どもたちが楽しみながら自然に体力や運動能力を向上させる環境が構築されています。

また、運動と密接に関わる「食育」においても、地場産食材を活かした給食の提供等が、子どもたちの健康な体づくりの土台を支えています。

一方で、幼児期に培われた運動への関心を、学童期以降の主体的な活動へと繋げていく点に課題が見られます。

学童期以降はスポーツ少年団など選択制の活動へ移行するため、運動をする子どもと運動をしない子どもの二極化が進む傾向があり、この移行を円滑に支援する仕組みづくりが求められます。

(1) 幼児期からの遊びや運動の習慣づくり

幼児期は、生涯にわたる運動習慣の基礎を形成する極めて重要な時期です。

本市では、保育園や子育て支援センター、児童館などが連携し、子どもたちが日常

生活の中で自然に、かつ安全に運動に親しめる環境を整備・提供しており、その目的はおおむね達成されています。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	親子で遊びや運動に親しむプログラムの提供	子ども政策課	C
②	幼児期の身体活動の促進	すみれ保育園	B
③	幼児期からの望ましい栄養・食生活の確立	すみれ保育園 保健課	B C
④	「子どもひろば」などの活用	子ども政策課	B

【これまでの主な取組】

保育園では、リトミックや体操、巧技台・鉄棒などの運動用具を用いた活動をカリキュラムに組み込み、子どもたちが楽しみながら身体の使い方を覚える機会を計画的に提供しました。

また、子育て支援センターや児童館「子どもひろば」では、専門講師による親子エクササイズや、ボールプール・マット等の遊具を整備し、親子が室内で安全に遊べる場と機会を提供しました。

健康の基盤となる食生活に関しても、保育園給食において地場産物を活用した統一献立を提供し、望ましい食習慣の確立を目指しました。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○親子での戸外活動は人気であるが、企画内容による参加人数の差が課題。 ○保育園での運動活動は個々の発達に合わせ、怪我の減少といった効果を上げた。 ○保育園給食は市内13園で連携し、栄養や発達に配慮した献立の提供を行った。 ○ひろば事業は、現在ではコロナ禍から利用者が目標値付近まで回復した。 		<ul style="list-style-type: none"> ○幼児期の運動は神経系の発達に重要であり、活動を継続できる環境の増加を期待する。 ○食育は家庭での実践が最も重要になるため、保護者の意識づくりを進めて欲しい。 ○のびのびパークは参加者が減少しており、内容や時期、広報などの原因分析を望む。 ○食育推進事業やひろば事業は参加者が増加傾向のため、工夫を凝らし継続を期待する。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

親子向けのプログラムへの参加者が固定化される傾向や、家庭環境による運動機会の差が見られます。

食育に関しては市民アンケートから課題が明らかとなっており、従来の家庭のみならず、社会全体での食育の推進が求められています。

【今後の方向性】

成果が出ている事業は継続を基本とし、参加者が伸び悩む事業は内容や周知方法の改善を図ります。

特に食育は、家庭での実践を支えるため、保護者を対象とした意識啓発の取組強化を推進します。

(2) 子どもの体力向上

運動の楽しさ、魅力に触れる機会や体力を高める活動を通して、運動をする・しないの二極化を解消し、子どもたちの生活の基盤となる体力を育む取組を推進しました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	外遊びや歩くことなどによる運動習慣の形成	すみれ保育園	B
②	運動やスポーツ体験機会の充実	健康スポーツ課	C
③	学童クラブ等でのニュースポーツの普及	健康スポーツ課	A
④	トップアスリートなどとの交流	健康スポーツ課	—
⑤	スポーツ少年団への加入促進支援	健康スポーツ課	B
⑥	保護者、教員、指導者向けの研修機会の充実	健康スポーツ課	—
⑦	丈夫な体をつくる栄養・食生活の推進	すみれ保育園 学校給食センター	B B

【これまでの主な取組】

幼児期には、保育園での戸外活動や公園での遊びを通じて、筋力や敏捷性を育ててきました。

学童期には、スポーツ協会が主体となり「かけっこ教室」や「初心者スケート教室」といった専門的な指導を受けられる機会を提供しました。

また、地域活動と連携したニュースポーツの普及や、スポーツ少年団への加入促進、スポーツテスト会の開催など、活動の活性化を支援しました。

栄養面では、学校給食センターが中心となり、給食を「生きた教材」とした食に関する指導を全小中学校で実施し、大学と連携した親子料理教室も開催しました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
○保育園の戸外活動や運動は、個々の発達に応じて体力強化などの成果を上げている。 ○小中学生のスポーツ二極化が課題であるが、一部事業は整理し効率化を図った。 ○ニュースポーツ体験やスポーツ少年団への支援は、参加者から高く評価されている。 ○保育園給食や小中学校の食指導は、工夫を凝らし児童生徒の栄養確保に努めている。		○事業継続には、スポーツ二極化などの課題に対し柔軟な思考と取組が必要。 ○プロ選手との連携や五感を使う活動など、プログラムの質を向上させて欲しい。 ○様々なニュースポーツを導入し、支える大人が意見交換できる場も必要。 ○小中学生の給食は、成長期に必要なエネルギー量が不足しているのではと懸念する。	
B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

運動習慣のある・なしの二極化傾向が進行しています。

食育面では、成長期の児童生徒に必要な給食のエネルギー量が不足しているとの指摘や、教諭不足で指導を拡充できていない点が課題となっています。

【今後の方向性】

運動の得意・不得意にかかわらず楽しめるレクリエーション活動の機会の提供を図ります。

また、食指導は継続し、児童生徒の栄養確保に努めます。

基本施策 I - 2 : 高齢者の健康づくりの推進

高齢化の進展を踏まえ、高齢者が生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、健康寿命の延伸と介護予防（フレイル予防）に資する取組を推進しました。

特に、運動を始める「きっかけづくり」と、地域で継続的に活動できる「環境づくり」を両輪とし、施策を展開しました。

(1) 運動やスポーツへのきっかけづくり

高齢者が自身の体力や興味に応じて気軽に参加できる多様な運動・スポーツの機会を提供し、健康づくりへの第一歩を踏み出すきっかけとなることを目指しました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	ニュースポーツ体験機会の充実	健康スポーツ課	—
②	歩くなどの運動習慣につながる機会づくり	健康スポーツ課	B
③	栄養・食生活や運動などの各種事業の取組み	介護福祉課	B

【これまでの主な取組】

世代を問わず楽しめる「ニュースポーツ」の体験教室や、気軽に始められるウォーキングを推進する「歩くことを通したまちづくり事業」を展開しました。

また、高齢者を対象としたハイキングや、自身の体力レベルを確認できる「シニア体力測定会」などを開催し、仲間づくりや健康意識の向上を支援しました。

特に「介護予防老人スポーツ大会」は、令和4（2022）年度から、より個人の体力把握と介護予防に繋げることを目的に「シニア体力測定会」へ内容を変更し実施しています。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○「歩くことを通したまちづくり事業」は新型コロナウイルスが落ち着いたため、個人参加型の企画と交流イベントの両立を図り事業を実施した。 ○介護予防老人健康ハイキングは、体力づくり、交流、学びの機会提供という目的が相当程度達成された。 ○介護予防シニア体力測定会は、自らの健康状態を把握できると好評を得ており、事業目的はかなり達成できていると考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○各種ウォーキング事業は、市民の体力・健康づくりに繋がっていると評価する。 ○今後も参加者が飽きないように、内容のマンネリ防止に努めることが重要。 ○クイズラリーやウォーキングマップは、運動を始めるきっかけとして非常に良い取り組みである。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

高齢者の健康づくりの推進を担っていた「歩くことを通したまちづくり事業」が自主的な取り組みへと方針転換するため、今後の習慣維持が重要です。

また、ニュースポーツや体力測定会などの多様な事業で、参加意欲を維持しシニア世代の健康習慣をさらに深めてもらうかが課題です。

【今後の方向性】

「歩くことを通したまちづくり事業」は自主的な活動へ移行するため、今後はウォ

ーキングマップ周知等に努めます。

また、ニュースポーツのさらなる推進や、介護予防事業の取組は継続します。

(2) 高齢者の健康づくり

住民主体の介護予防活動を核として、高齢者が身近な地域で気軽に集い、継続的に健康づくりに取り組める体制の構築と、それに関する情報発信の強化を図りました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	住民主体による介護予防の普及啓発	介護福祉課	B
②	高齢者対象の健康や運動に関する広報活動の推進	保健課	B

【これまでの主な取組】

重りを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及に努め、地域の町内会等での自主的な活動グループの立ち上げと運営を支援しました。

また、活動の担い手となる「いきいき百歳体操サポーター」の養成講座を定期的で開催し、住民主体の活動の質の維持・向上を図りました。

その他、広報えにわやシニア向けポータルサイト「えにわ百歳生活のコツ」等を活用し、活動場所や健康に関する情報を継続的に発信しました。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○「いきいき百歳体操」は、活動の担い手不足などの課題はあるが、住民主体の活動の場は減少しておらず、目的はかなり達成されていると考えられる。 ○シニア向けポータルサイトのアクセス数は目標を下回ったものの、介護予防事業等に関する情報を定期的に掲載し、情報発信していることから、目的はおおむね達成されていると考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○住民主体の活動の場の開設数は目標に対して100%の達成率となっており、目的は達成されている。 ○サポーター養成等担い手不足やポータルサイトへのアクセス数が少なく周知が必要。 ○シニア向けポータルサイトはわかりやすく様々な情報が網羅されているので、是非多くの方に利用してもらいたい。また、QRコードを載せる、内容をより伝わりやすくするためサイト名変更の検討をするのはどうか。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

いきいき百歳体操サポーター養成講座に見られる住民主体の活動において、運営を

担う人材の不足が継続的な課題となっています。

また、シニア向けポータルサイトは、内容は充実しているものの、アクセス数に伸び悩みを見せています。

【今後の方向性】

活動の担い手不足対策として、いきいき百歳体操サポーター養成講座を継続的に推進します。

シニア向けポータルサイトは、アクセス数向上のため周知等に努めます。

基本施策 I - 3 : 気軽に参加できる多様な機会の充実

市民一人ひとりのライフステージや健康状態、興味関心に応じて運動・スポーツ活動への参加を促進するため、特にこれまでスポーツに親しむ機会の少なかった層や、多忙な成人期世代を対象に、気軽に参加できる多様な機会の提供と、活動的な生活習慣へのきっかけづくりを推進しました。

(1) 活動的な生活習慣へのきっかけづくり

日常生活の中で体を動かすことの重要性や、生活習慣病予防に関する知識の普及啓発を行うとともに、健康に関する相談体制を整え、市民が自らの健康に関心を持ち、行動変容へと繋げるためのきっかけづくりを目指しました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	日常生活の中で意識して体を動かすことの啓発	保健課 健康スポーツ課	A B
②	生活習慣病予防のための情報の提供	保健課	B
③	年齢や健康状態に応じた相談体制の充実	保健課	A

【これまでの主な取組】

「歩くことを通したまちづくり事業」として、ウォーキングマップの配布やホームページを通じて、日常生活での運動を啓発しました。

特定健診や各種健康教室において、生活習慣病予防に関する情報提供を継続的に実施し、保健師や管理栄養士による個別の健康相談を行いました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
○「歩くことを通したまちづくり事業」は新型コロナウイルスが落ち着いたため、個人参加型の企画と交流イベントの両立を図り事業を実施した。 ○各種健康教室は、健康教育・健康相談事業の一環で実施しており、国の健康づくりのための身体活動指針に基づき、様々な場面で正しい知識の普及啓発及び個人の健康状態に応じ相談対応ができています。		○健康教育・健康相談等多数の市民が参加しており、目的は十分達成されている。 ○ニュースポーツ「モルック体験」では、普段運動をしない人でも楽しく体を動かすことができ良かった。このような機会が年間を通してあるとさらに良いと考える。	
A	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	A	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

健康教育や健康相談事業が好評の一方、情報提供や啓発活動が実際の運動習慣に結びつかないケースや、運動に対して関心の薄い人に届きにくいという課題があります。

【今後の方向性】

健康教育・健康相談の体制を維持しつつ、一人ひとりの健康状態に応じた運動のきっかけづくりとなる情報提供を継続し、健康づくりと運動の習慣化を推進します。

(2) 気軽に参加できる身近な運動やスポーツ機会の提供

初心者や運動が苦手な人、障がいのある人などを含め、誰もが気軽に参加し、楽しめる身近な機会を提供することを目指しました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	歩くことによる健康づくり事業の推進	健康スポーツ課	B
②	ニュースポーツ体験機会の充実	健康スポーツ課	A
③	気軽に参加できるプログラム等の充実	健康スポーツ課	A
④	初心者スポーツ教室などの充実	健康スポーツ課	A
⑤	高齢者も参加しやすいプログラムの充実	介護福祉課 健康スポーツ課	A
⑥	障がいのある人への運動やスポーツの普及啓発	障がい福祉課 健康スポーツ課	— —
⑦	施設などへのアクセス向上による運動・スポーツへの参加促進	健康スポーツ課	C

【これまでの主な取組】

ウォーキングイベント、世代を問わず楽しめるニュースポーツの体験会、ヨガやフィットネスエクササイズ、初心者向けのスポーツ教室などを多数開催しました。

障がいのある人を対象としたポッチャ教室等を開催し、パラスポーツの普及啓発に努めました。

市民スキー場へのアクセスについては、公共交通機関がないため、シャトルバス（スクールバス）の運行を行ってきました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○「歩くことを通したまちづくり事業」は、新型コロナウイルスが落ち着いたため、個人参加型の企画と交流イベントの両立を図り事業を実施した。 ○健康スポーツフェスティバル等運動へのきっかけづくりでのイベントの周知効果は大きく、気軽に楽しめるニュースポーツの普及や交流の場作りに寄与している。 ○総合体育館での年間を通して開催している気軽なプログラムやスポーツ教室は大変好評で、参加者が増加している。 ○スキー場バスは少雪による開設遅れが影響し、令和6年度の利用者はゼロであった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○各種スポーツ教室には多数の市民が参加しており、市民のスポーツ活動の生活化に寄与している。 ○各イベントでニュースポーツ体験等によりスポーツを始めるきっかけづくりを行っている。 ○市民が気軽に歩くことや様々なスポーツに関われる環境が整っていると考える。 	
A	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	A	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

現行計画で推進してきた「歩くことを通したまちづくり事業」は、これまでの取り組みの結果から個人主体へ移行するため、今後の習慣維持が課題です。

また、気候に左右されず、高齢者や障がい者を含む誰もが安定的に参加できる機会の提供についても、今後の課題となっています。

【今後の方向性】

「歩くことを通したまちづくり事業」は自主的な活動へ転換するため、ウォーキングマップの周知等による推進を継続します。

高齢者や障がい者向けのプログラムも充実を図り、誰一人取り残させない参加の場の提供に努めます。

(3) 子育て世代・働き盛り世代への運動やスポーツの機会づくり

時間的・身体的制約の多い子育て世代や働き盛り世代が、運動・スポーツに参加しやすい環境づくりを目指しました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	子育て世代が参加しやすいプログラムの提供	子ども政策課	C
②	親子でできる運動や遊びプログラムの提供	子ども政策課	C
③	働き盛り世代が参加しやすいプログラムの提供	子ども政策課	C

【これまでの主な取組】

子育て支援センター等において、親子が一緒に体を動かせるプログラムについて、平日のみならず、隔週土曜日の開設や、父親向けの親子イベント「サンデーパパ」を第2日曜日に実施するなど、就労等により平日の利用が難しい子育て家庭に対しても利用しやすいよう、子育てひろばの開設を工夫してきました。

また、休日に子育て家庭が過ごすことのできる場所として、子育て支援センターの日曜日開設も行いました。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外活動や保育園の園庭活用など、子育てひろばを利用している様子のニーズに合わせ、遊具等も整備している。 ○ 令和4年度から、親子での戸外活動に特化、事業開催についても、年6回と回数の見直しを行った。全般的に参加希望者が多い事業ではあるが、企画内容により参加人数にばらつきがあるため、企画内容も含めた事業内容の検証が必要である。 ○ 子育て中の親子が取り巻く環境が大きく変化していく中、家族のスタイルや働き方なども多様化しており、幅広いニーズを踏まえながら対応していくことが必要であると考えます。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 年々、フィットネスやランニングに対する関心が高まっているように感じる。 ○ 市内のマラソン大会を増やしたり、スパルタンレースの簡易的なレースを実施したり、単発で参加出来る事業の他に、継続してトレーニングを続ける必要があるような取り組みがあると良いのではと感じる。 ○ 全体的に参加者数が減少傾向にあるようなので、既に取り組んでいるかもしれないが、SNSを利用して実際の画像や動画を使いアナウンスしてはどうか。 ○ より多くの人に参加してもらえよう、内容やアナウンスの方法を検討してより広く周知して欲しい。 	
C	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	C	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【R6 運動・スポーツに関するアンケート調査結果から】

問 運動・スポーツをしたいと思ってもできなかった理由は何か。

「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」 (50.0%)

「きっかけがなかったから」 (26.1%)

「仕事や家事の疲れから」 (21.3%)

【課 題】

親子の運動プログラムはさらに多くの人に利用してもらえるには、どのような方策を立てるべきか課題があり、支援センターや子育てひろばは、今後も子育てニーズを把握し継続的な検証が必要です。

【今後の方向性】

親子向けのプログラムは継続し、今後も事業の周知強化に努めると共に、さらに多くの親子に利用してもらえるよう事業の検証に努めます。

（４）多様な運動やスポーツの継続支援

市民が日頃の練習の成果を発揮し、競技への意欲を高める機会として、また、スポーツを通じた市民交流の場として、各種スポーツ大会の開催を支援しました。

	事 業	担当課	
		課 名	個別評価
①	各種運動プログラムやスポーツ教室の充実	健康スポーツ課	A
②	各種スポーツ大会の開催	健康スポーツ課	A

【これまでの主な取組】

市民体育大会や各種目別の大会など、年間を通じて多様なスポーツ事業が実施出来るよう、主催団体である恵庭市スポーツ協会等への支援を行いました。

また、総合体育館では、誰でも気軽に参加できるヨガやフィットネスなどの教室を年間通して開設し、好評を得てきました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
<p>○総合体育館の一般開放利用者を対象に、それぞれの都合に合わせて事前申し込みなしで気軽に楽しむことができるプログラムを年間通して開催、大変好評を得ており、参加者数が増え続けている。</p> <p>○コロナ禍は、利用者数の減少傾向が続いたが、現在は活発な活動が行われている。恵庭市スポーツ協会を中心とした関連団体は、スポーツ振興と普及を通じて、明るく豊かな市民生活の形成に寄与している。</p>		<p>○申し込み無しで利用できる場所が増えていることはとても良いことだと感じる。より気軽に体育施設に通うことが習慣になると、より良い環境が整うのではないかと。</p> <p>○新型コロナウイルスが落ち着き、参加者はどのプログラムも増加傾向にある。特にフィットネスやヨガ、バレトン等が、非常に成果が出ていると考える。</p>	
A	<p>A：目的が十分に達成されている。</p> <p>B：目的がかなり達成されている。</p> <p>C：目的がそこそこ達成されている。</p> <p>D：目的があまり達成されていない。</p> <p>E：目的が達成されていない。</p>	A	<p>A：目的が十分に達成されている。</p> <p>B：目的がかなり達成されている。</p> <p>C：目的がそこそこ達成されている。</p> <p>D：目的があまり達成されていない。</p> <p>E：目的が達成されていない。</p>

【課 題】

今後も継続的に実施するための指導者等の発掘・育成及び、少子・高齢化に伴う各団体における登録人数の減少が課題です。

【今後の方向性】

スポーツ協会等の関係団体への支援を継続し、市民の貴重な活動発表の場である各種大会の安定的な開催や、利用者のニーズに応じた事業の開催を支えます。

(5) アウトドア・ウィンタースポーツの振興

本市の豊かな自然環境を活かし、市民が四季を通じて多様なスポーツに親しむ機会の提供を目指しました。

	事 業	担当課	
		課 名	個別評価
①	アウトドアスポーツの普及推進	健康スポーツ課	—
②	ウィンタースポーツの普及推進	健康スポーツ課	B
		健康スポーツ課	A

【これまでの主な取組】

市民スキー場や市民スケート場の開設などを通して、冬期間の体力維持・健康増進に努めました。

また、道央圏の主要な冬季スポーツイベントとして「恵庭クロスカントリースキー大会」を開催し、子どもから高齢者まで多くのスキー愛好者が集う場を提供しました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
<p>○令和6年度は記録的な少雪の影響により、市民スキー場の開設期間が例年と比較して、大幅に減少したが、冬期間におけるスポーツの普及・推進の意義は果たしている。</p> <p>○令和6年度の恵庭クロスカントリースキー大会は、記録的な雪不足により中止となった。大会エントリー数は減少傾向であるため、参加者数を伸ばす取り組みを強化したい。大会の認知度・評価は高く、参加者の満足度も高い大会であり、事業の意義は高い。</p>		<p>○年々、温暖化や雪不足が進み、ウインタースポーツを通して、冬期間の体力づくりの機会が減少しつつある。</p> <p>○クロスカントリースキー大会も雪不足やウインタースポーツ離れで参加者増加は難しいが、事業継続のための再検討が必要。</p> <p>○北海道ならではの冬期スポーツに対し、前向きに取り組んでいる。雪不足の対応策が必要。</p>	
B	<p>A：目的が十分に達成されている。</p> <p>B：目的がかなり達成されている。</p> <p>C：目的がそこそこ達成されている。</p> <p>D：目的があまり達成されていない。</p> <p>E：目的が達成されていない。</p>	B	<p>A：目的が十分に達成されている。</p> <p>B：目的がかなり達成されている。</p> <p>C：目的がそこそこ達成されている。</p> <p>D：目的があまり達成されていない。</p> <p>E：目的が達成されていない。</p>

【R6 運動・スポーツに関するアンケート調査結果から】

問1 この1年間に健康のためどのようなスポーツを行いましたか。

- 「ウォーキングや散歩など」 (51.6%)
- 「体操」 (29.9%)
- 「ランニング・ジョギング」 (19.3%)
- 「器具や機械などを使った運動やトレーニング」 (18.2%)

問2 今後、市としてどのような取組みが必要ですか。

- 「スポーツ施設の整備」 (26.9%)
- 「ウォーキングやジョギングなどができる道路整備」 (24.4%)
- 「大会やイベントなどの開催」 (22.9%)
- 「手軽にスポーツができる公園整備」 (21.3%)
- 「子どもの体力の向上」 (19.6%)
- 「利用しやすい施設運営」 (18.7%)

【課 題】

近年の少雪傾向により各種ウインタースポーツ事業の実施が不安定になっている等、昨今の気候変動が冬期間の事業継続に与える影響が深刻な課題となっています。

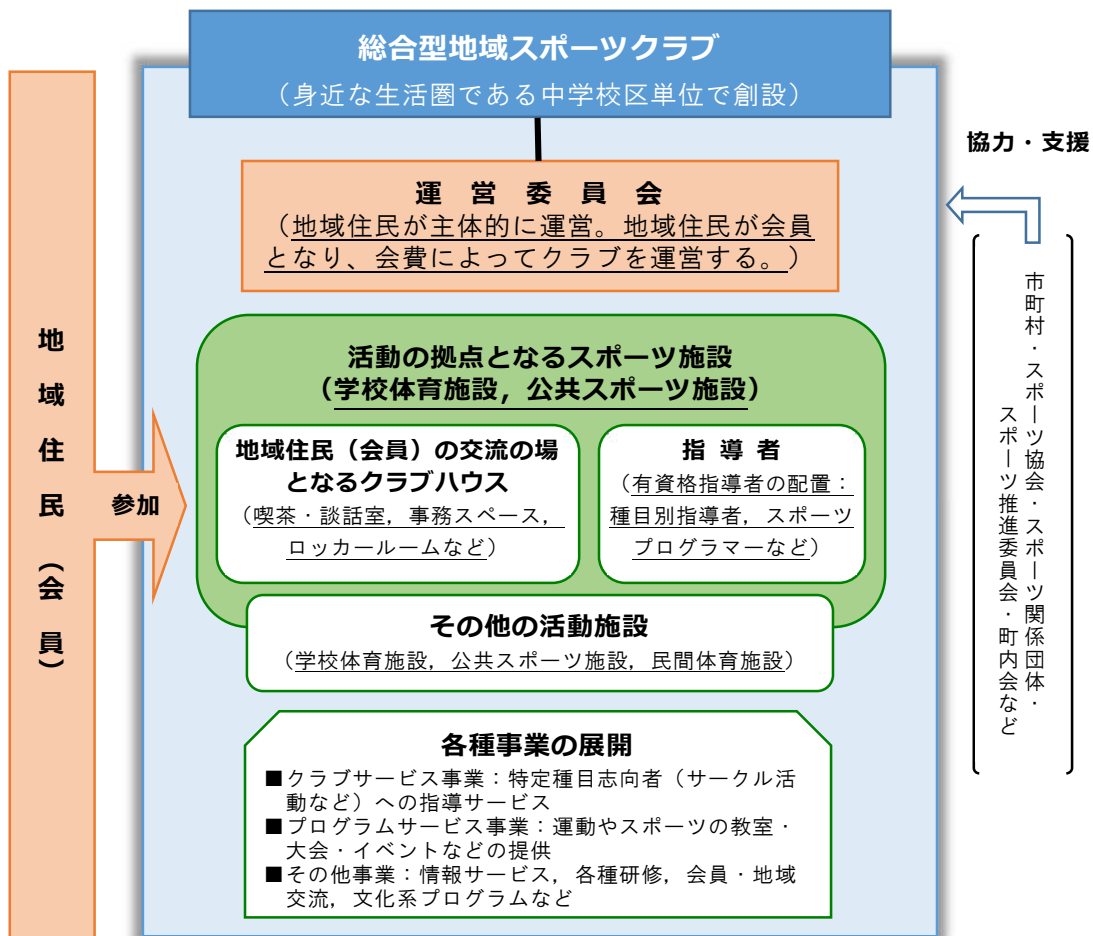
【今後の方向性】

昨今の気候変動を受け、冬のアウトドアスポーツのあり方についても転換期を迎えていることから、既存の事業に固執せず新たな取り組みや事業集約も視野に入れ、全体のスポーツ推進へと繋げていく必要があります。

II 運動やスポーツ活動を支える環境づくり

市民が安全・安心に、かつ継続して運動・スポーツ活動に取り組めるよう、その基盤となる指導者の養成や団体の育成、学校教育との連携、さらには的確な情報提供といった、活動を「支える」環境の整備を総合的に推進してきました。

(注4) 総合型地域スポーツクラブ(概要は下図参照)：文部科学省や日本スポーツ協会などが推奨している事業で、地域住民が運営主体となり、地域に住むいろいろな年齢層の人が、いつでも気軽に運動やスポーツに親しむことができるクラブのこと。特徴としては、複数種目の活動(指導も含む)が行われ、レベルに応じた活動が可能。スポーツ以外の活動が行えるクラブもある。また、地域が主体となっており、会員となっている地域住民の年代を越えた交流が活性化される。



基本施策Ⅱ－１：地域の運動やスポーツ活動の充実

(1) 地域で活動する団体などへの支援・連携強化

恵庭市スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブといった多様なスポーツ団体に対し、運営支援を行うことでその組織基盤の強化を図るとともに、団体間の連携を促し、地域におけるスポーツ活動全体の活性化に努めてきました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	スポーツ協会への支援や連携の強化	健康スポーツ課	A
②	スポーツ少年団活動への支援	健康スポーツ課	B
③	競技団体などへの育成支援	健康スポーツ課	A
④	各種競技団体が主管する全国大会などの開催支援	健康スポーツ課	—
⑤	総合型地域スポーツクラブとの連携	健康スポーツ課 教育総務課	B B
⑥	地域団体などにおける運動やスポーツの推進	健康スポーツ課	A

【これまでの主な取組】

本市スポーツの中核団体である恵庭市スポーツ協会や、スポーツ少年団、各種競技団体、等に対し、その運営や事業実施への支援（補助・助成）を行い、組織基盤の強化と活動の活性化を図りました。

北海道ハイテクACアカデミーや恵庭市スポーツ協会が設立している総合型地域スポーツクラブと連携を行っており、ハイテクACにおいては、市内小・中学校の体育授業において、走り方等の実技力の指導を行いました。

【評価】

担当課評価	審議会評価
<ul style="list-style-type: none"> ○加盟団体との連絡・調整及び育成・支援によりスポーツ振興と普及を通じて、スポーツの振興・普及に寄与している。 ○スポーツ推進を図る上で総合型地域スポーツクラブの役割は重要であり、更なる連携方法の検討が必要である。 ○専門的な指導者派遣により、「児童の体力・実技力の向上」及び「教員の指導力の向上」に一定の成果を上げている一方で、学校からの実施報告書等により課題も見られる。 ○出前講座の依頼が近年大幅に増加し、特に最近ではモルックなどのニュースポーツや地域における運動・スポーツ活動の普及・促進に寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちのため、教員を支える事業はとても重要だったと感じる。 ○ニュースポーツについて知る機会が増えたと思うので、今後もスポーツ大会等を通じての普及を希望する。 ○登録団体数・会員数共に増加しており、各活動・各競技団体等への支援事業は充実していると思うので、今後もPR等を継続して欲しい。 ○専門的な指導は結果につながりやすいと思うので、今後も継続や拡大の検討を希望する。 ○近年人気の高いモルック等は生涯スポーツとして取り組みやすく、今後も参加者増が見込まれるため、継続希望。

B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。
---	--	---	--

【課題】

地域スポーツ団体においては、少子化を背景とした会員・団員数の減少が課題となっている一方、学校体育への支援事業においては、より効果的な内容についてさらなる検討が必要です。

【今後の方向性】

地域スポーツ団体の会員拡大に向け、支援を継続します。

学校体育授業支援については検証を重ね、より効果的な内容への取り組みを図ります。

(2) 活動を支える人材の養成・確保

市民が指導者資格を取得するための支援や、指導者を探す団体とのマッチング、そしてイベントを支えるボランティアの養成などを通じて、地域スポーツを担う多様な人材の養成と確保、資質の向上に努めました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	指導者の発掘と研修機会の拡充	健康スポーツ課	—
②	スポーツ推進委員やスポーツ指導員による地域スポーツ活動の拡充	健康スポーツ課	A
③	運動やスポーツに関わる人材と地域との連携の強化	健康スポーツ課	A
④	スポーツボランティアの意識啓発	健康スポーツ課	—
⑤	健康や運動・スポーツ情報の充実	介護福祉課	B

【これまでの主な取組】

スポーツ推進委員による出前講座を積極的に実施し、ニュースポーツの普及や地域におけるスポーツ活動の推進に取り組みました。

また、高齢者に対してはシニア向けポータルサイト等を活用し、健康や運動に関する情報発信を継続的に行いました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
<p>○近年、出前講座の依頼が増加傾向であり、ニュースポーツ、地域における運動・スポーツ活動の普及・推進に寄与した。屋内で誰もが短時間で参加出来るモルック・ポッチャ等のニュースポーツは生涯スポーツの取組として、最適な手段であると考えます。</p> <p>○シニアポータルサイトはアクセス数の目標を下回ったものの、介護予防事業等に関する情報発信を行うことができています。</p>		<p>○せっかくの生涯スポーツを、生涯通して楽しむことが出来るような普及が進むことに期待。</p> <p>○新型コロナウイルスが落ち着き、運動の機会を求めている人が増えていると思われる中での出前講座は非常に良い内容であったと思うため、今後も継続して欲しい。</p> <p>○今人気のあるモルックやポッチャ等は生涯スポーツとして取り組みやすく、今後参加者がさらに増加することも予想されるため継続して欲しい。</p> <p>○アクセス数は目標を下回っていると言え、一定数いる上に、新型コロナウイルスが落ち着いた現在は特に多くの情報を欲している方がいると思われるため、アナウンス・アピールを今以上にしていく必要があるのではないか。</p>	
A	<p>A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。</p>	A	<p>A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。</p>

【課 題】

地域スポーツ活動を支える指導者やボランティア等、人材の安定的な発掘・育成が課題となっています。

また、シニア向けポータルサイトはアクセス数が伸び悩んでいる状況です。

【今後の方向性】

指導者等の発掘・育成に向けた仕組みづくりを検討し、人材基盤の強化に努めます。

また、好評な出前講座は継続し、今後も参加を促します。

その他、シニア向けポータルサイトについては周知強化等に努め、アクセス数の向上を図ります。

基本施策Ⅱ－２： 競技力の向上

(1) ジュニア期からの競技力向上

学校教育の場で子どもたちが体系的に体力・運動能力を高められる環境づくりを進めるため、専門性の高い外部指導者の派遣や運動部活動の支援を行ってきました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	地元トップアスリート・競技者による指導機会の拡充	健康スポーツ課	—
②	学校部活動などへの専門指導者派遣支援	教育総務課	C
③	選手育成事業などへの支援	健康スポーツ課	—
④	競技指導者などの養成・指導力向上のための研修機会の確保	健康スポーツ課	—
⑤	競技スポーツに必要な栄養・食生活に関する情報の提供	健康スポーツ課	—
⑥	高等教育機関などからのスポーツ医・科学情報の提供	健康スポーツ課	—

【これまでの主な取組】

教員の専門外の種目（走り方、器械体操など）において、総合型地域スポーツクラブから専門指導者を派遣し、体育授業の質の向上を図りました。

また、教員の働き方改革と部活動の質的向上を目指し、部活動指導員の配置を推進しました。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
○部活動指導員を配置することで、担当顧問の勤務時間の削減、生徒の競技力の向上など、勤務時間の調査や生徒アンケートから一定の成果があると考えます。 一方、配置校や配置できる部活動が限定的であることや、年間の指導時数を十分に確保できていない点などは改善を要する。		○部活動の地域展開が進んでいるとはいえない状況だと感じる。 ○部活動の地域移行（展開）は難しい課題であるが、今後も前向きな取組を継続して欲しい。	
C	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	C	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

部活動指導員の配置は顧問の負担減など一定の成果がある一方で、配置が一部の学校や部活動に限定され、指導時間数も十分に確保できていないため、改善が必要です。

また、部活動の地域展開についても課題があります。

【今後の方向性】

部活動指導員の配置が一部の学校や部活動に限定されている点及び、指導時間不足等の課題改善に努めます。また、運動部活動の地域展開については地域人材の確保や育成、関係機関との連携強化など、今後も検討を継続します。

(2) 優秀競技者などへの支援

国際大会や全国大会等に出場する競技者を支援するため、補助金の交付を行い、優秀な成績を収めた競技者やスポーツ振興に功績のあった人を顕彰してきました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	国際・全国大会などの出場者への支援	健康スポーツ課	B
②	優秀競技者などの顕彰	健康スポーツ課	A

【これまでの主な取組】

全国大会等に出場する選手に対し、補助金を交付することで経済的負担を軽減し、競技への専念を支援しました。

また、スポーツの分野で優秀な成績を収めた個人・団体や、本市のスポーツの発展に功績のあった方を優秀競技者として表彰し、その功績を讃える顕彰事業を実施しました。

【評価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会等に出場する際に、補助要綱に則りスポーツ振興基金を活用して、補助金を交付しているが、補助金額が十分ではないとの意見もある。 ○競技者及び指導者にとって、表彰は励みとなっており、本市のスポーツ発展に関し、意義のある事業となっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○補助金の金額は仕方ないと思うが、このような制度があることが、ありがたいことである。 ○表彰は励みのある事業であるが、誰もが顕彰されるものではなく、重みのある表彰であることも必要。 ○資金は限られているため、市民に対しお金の使い方を周知徹底することが求められる。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

全国大会等への補助金制度は、補助額や交付要件など、市民ニーズに合わせた総合的な見直しが課題です。

また、功労者への顕彰は、受賞後の更なる活躍に繋げるための仕組みづくりが求められます。

【今後の方向性】

補助金制度は必要に応じ内容等の検討し、適正化に努めます。

功労者への顕彰は、表彰を機に更に活躍できる環境づくりを推進します。

Ⅲ 運動やスポーツを楽しむ環境づくり

市民一人ひとりが、生涯にわたって運動・スポーツを多様な形で楽しみ、心豊かな生活を送ることができるよう、その基盤となる環境づくりを推進してきました。

具体的には、活動のきっかけとなる「情報提供の充実」と、安全で快適な活動の場である「スポーツ施設の充実」を2つの柱とし、多角的な取組を展開しました。

基本施策Ⅲ－１： 運動やスポーツに関する情報提供の充実

市民が運動・スポーツへの関心を高め、自らのニーズに合わせて活動に参加したり、質の高いスポーツを観戦したりする「きっかけ」を創出するため、多様な媒体を通じた情報発信の強化と、トップレベルのスポーツに触れる機会の提供に取り組みました。

(1) 情報の収集・発信

市民が必要な時に必要なスポーツ情報を容易に入手できるよう、広報誌やホームページなど多様な媒体を活用し、情報を届ける体制の構築に努めてきました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	各種情報の収集を目的とした各関係機関などとの情報共有体制の構築	健康スポーツ課	—
②	多様な媒体を活用した情報の発信	介護福祉課	B
③	健康や運動・スポーツ情報の充実	介護福祉課	B

【これまでの主な取組】

市の広報誌や指定管理者のホームページを中心に、市内で開催されるスポーツイベントや各種教室、施設の空き状況などの情報を随時発信しました。

また、指定管理者と定期的な打ち合わせの場を設け、情報共有を行いました。

高齢者向けには、令和3（2021）年度より、これまでの「ウェルネススペースえにわ」から名称を変更したシニア向けポータルサイト「えにわ百歳生活のコツ」にて、いきいき百歳体操やサロン、病気の予防や健康に関する情報の他、スポーツや観光、ボランティア情報等の発信に努めました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
○シニア向けポータルサイトは、アクセス数が目標を下回ったものの、介護予防事業等に関する情報を定期的に掲載し情報発信していることから、目的はおおむね達成されていると考える。		○介護予防に関する情報を定期的に発信しているがアクセス数は横ばいで、さらに市民への周知が必要。 ○シニア向けポータルサイト「えにわ百歳生活のコツ」は、「運動・スポーツで健康づくりをする」ことを連想するような名称に変更して、毎日アクセスしたくなる内容を盛り込んで欲しい。	
B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

情報共有体制が指定管理者等一部団体とは強固に連携しているものの、その他の関連団体とは定期的な打ち合わせまでには至っていません。

また、シニア向けポータルサイトはアクセス数が伸び悩んでいる状況です。

【今後の方向性】

既存の連携を基盤に、より多くの団体との情報共有体制構築を検討し、情報収集力・発信力の強化に努めます。

シニア向けポータルサイトは、周知の強化等を検討し、発信力の向上を図ります。

(2) スポーツ観戦の機会づくり

プロスポーツチームやトップアスリートの活躍を市民に広く知らせることを通じて、スポーツへの関心を高めるとともに、子どもたちに夢や目標を与え、スポーツに取り組む意欲の向上を図ってきました。

	事 業	担当課	
		課 名	個別評価
①	スポーツ観戦の推進	健康スポーツ課	—
②	トップアスリートとの交流の機会づくり	健康スポーツ課	—
③	市民と一体となって行う応援活動の推進	健康スポーツ課	—

【これまでの主な取組】

スポーツ観戦の推進として、大相撲恵庭場所や各種スポーツイベントの開催等を通して、市民にスポーツ観戦の機会を提供しました。

また、トップアスリートとの交流の機会づくりとして、民間企業によるスポーツ振興事業と連携しスポーツ教室を開催した他、北海道ハイテクACのコーチや元トップ

アスリートの指導による「かけっこ・陸上教室」を開催し、レベルの高い技術やテクニックに触れる機会を提供しました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
—	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	—	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

これらの事業項目にあった個別事業は現在実施を終了しているため、新たな事業の取組を推進します。

【今後の方向性】

これらの事業項目にあった個別事業は現在実施を終了しているため、新たな事業の取組を推進します。

基本施策Ⅲ－２：スポーツ施設及び関連施設の充実

市民が安全で快適にスポーツ活動に取り組める環境を整えるため、既存の施設ストックを最大限に活かす「施設の有効活用」と、指定管理者と連携し施設の適切な維持管理を行う「計画的な施設管理の推進」を両輪として、取組を進めてきました。

(1) 施設の有効活用

学校施設の開放による活動場所の確保や、各種ソフト事業との連携による利用促進、さらには市外施設の活用検討などを通じ、既存の施設ストックを最大限に活かし、市民の多様な活動機会を提供するための取組を進めてきました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	歩くことで健康を意識でき、快適さを味わうことができる環境づくりの推進	健康スポーツ課	B
②	学校スポーツ施設の活用	健康スポーツ課	B
③	スポーツ施設の有効活用の促進	健康スポーツ課	A
④	市外関連施設の利用の可能性について協議・検討	健康スポーツ課	A

【これまでの主な取組】

市民の活動場所を確保するため、学校体育施設の開放事業を推進しました。

「歩くことを通したまちづくり事業」において、主に公共施設をまちなか休憩所として設定し、ウォーキングマップに掲載したウォーキングコースを巡るなど、ソフト事業と連携して施設利用のきっかけづくりを推進しました。

また、近隣市町村の施設利用の可能性については、検討・協議を行った結果、千歳市温水プールについて、恵庭市民も千歳市民と同額の料金で利用できるよう連携体制を構築しました。

【評 価】

担当課評価		審議会評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○「歩くことを通したまちづくり事業」は、新型コロナウイルスが落ち着いたため、個人参加型の企画と交流イベントの両立を図り事業を実施した。 ○地域スポーツの振興を図るため、市内小中学校13校全校の体育館を利用希望する団体に開放し、活動場所の提供を図っている。 ○平成26（2014）年度より、屋内ゲートボール場をスポーツ施設として改修し運用しており、テニスやフットサル、野球の室内練習等に利用され、施設の用途変更は効果的であったと判断できる。 ○令和5（2023）年度から千歳市温水プール使用料金助成事業を実施し、差額分を恵庭市が負担することで恵庭市民に対し千歳市民料金を適用している。これにより、両市のスポーツ施設の相互利用の可能性について、継続協議が続いており、目的は達成されている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○冬期間のスポーツの場の確保として、学校開放や福住屋内運動広場の利用増加で、スポーツの場の確保は検討すべきである。 ○多くの人が興味を持つイベントの開催がされており、今後の参加者数増加を期待する。 ○恵庭市にも温水プールを、との声があるようであり、一部の市民プールが閉鎖されているため、何らかの道を考える時が来ているのではと感じる。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課 題】

「歩くことを通したまちづくり事業」は、現行計画の成果により、今後は自主的な取り組みへと方針転換するため、各施設の利用をこれからもいかに継続させていくかが課題となります。

また、学校開放施設は飽和状態にあり、温水プール等の整備要望も依然として高い状況です。

【今後の方向性】

「歩くことを通したまちづくり事業」を通じてあらためて認知された各施設につい

て、今後も気軽に利用してもらえよう既存施設の有効活用を推進します。

また、学校開放事業については運用改善を図ることに努めます。

近隣市との連携も継続する等、今後も施設の有効活用ができるよう、幅広い視点から推進していきます。

(2) 計画的な施設管理の推進

老朽化が進行する既存施設の長寿命化を図るための計画的な整備・改修と、将来の市民ニーズに応えるための新たな施設（通年型屋外スポーツ施設）の整備検討という、現在と未来の両面から施設管理に取り組んできました。

	事業	担当課	
		課名	個別評価
①	既存スポーツ施設の整備・改修の推進	健康スポーツ課	B
②	通年型屋外スポーツ施設の整備	健康スポーツ課	C
③	利用しやすい施設使用料などの検討	健康スポーツ課	—
④	利用促進に向けた、感染症予防対策への取り組み	健康スポーツ課	—

【これまでの主な取組】

指定管理者との協議を行い、限られた予算の中で緊急性や重要度の高いものから順次、既存スポーツ施設の計画的な整備・改修等を実施してきました。

また、天候に左右されずに年間を通じて市民が活動できる場を確保するため、通年で利用可能な屋外スポーツ施設の整備について、民間活力導入の可能性を探るサウンディング調査を実施しました。

【評価】

担当課評価	審議会評価
<ul style="list-style-type: none"> ○令和2（2020）年度にスポーツ施設修繕計画を作成。今後、公共施設等総合管理計画実施計画との整合性を図りながら、計画の見直しを行っていく必要がある。 ○平成26（2014）年度より、屋内ゲートボール場を体育施設として改修し運用しており、利用状況の把握等に努めてきた。平成29（2017）年度に施設整備に向けた方向性を取りまとめ、平成30（2018）年度には、民間による整備手法等の検討を進めることとし、民間事業者のアイデアによる意見の聞き取りを目的としたサウンディング調査を実施した。そのサウンディング調査結果はスポーツ振興まちづくり審議会等に報 	<ul style="list-style-type: none"> ○通年型屋外スポーツ施設の整備はいつから行うのか。 ○第6期恵庭市総合計画とマッチした運動、スポーツの整備や計画を検討し、スポーツ施設の見直し等を行って欲しい。 ○恵庭市は各用途により棲み分けがされており、とても過ごしやすい。今後も、赤ちゃんからお年寄りまでが健康で過ごすための施設・環境づくりに努めて欲しい。

告した結果等を踏まえ、今後も検討を継続する。			
B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。	B	A：目的が十分に達成されている。 B：目的がかなり達成されている。 C：目的がそこそこ達成されている。 D：目的があまり達成されていない。 E：目的が達成されていない。

【課題】

既存施設の老朽化に加え、今後の人口減少や多様化するスポーツニーズも見据える必要があります。

個別の修繕対応だけでは限界があり、集約等も含めた複合的な観点から考えることが求められています。

【今後の方向性】

既存施設の修繕は、総合管理計画等に基づき進める一方で、今後の新たなスポーツニーズも見据え、スポーツ施設全体の最適な配置や機能について、集約等も含めた長期的な基本方針の策定に向けた検討を進めていきます。

1. 総合評価の推移について

第1期計画期間中の取組について、令和2年度から令和6年度までの5年間の総合評価の推移（別添）のとおり、計画全体としての進捗は、多くの施策で一定の評価が上がっていることが確認されました。

特に、基本方針である「Ⅰ 運動やスポーツを通じた健康の保持増進」及び「Ⅱ 運動やスポーツ活動を支える仕組みのづくり」においては、ほとんどの項目で高い評価を得ており、子育て世代や高齢者への支援、地域スポーツを支える団体との連携といった、本市のスポーツ推進の根幹をなす部分が、有効に機能してきたことが示されています。

一方で、「Ⅲ 運動やスポーツを楽しむ環境づくり」における「計画的な施設管理の推進」や、近年の気候変動の影響を受ける「アウトドア・ウィンタースポーツの振興」といった項目では、施設の老朽化や財源確保など、中長期的な視点での対応が求められる課題も浮き彫りとなりました。

これらの評価結果は、第2期計画において、私たちが取り組むべき3つの重点課題（人・仕組み・環境）を、客観的な根拠をもって裏付けるものであり、次なる10年の、確かな道しるべとなるものです。

2. 「運動・スポーツに関するアンケート調査」

令和6年度に実施した「運動・スポーツに関するアンケート調査」（別添）の結果は、2020年に実施した前回調査と比較して、全体として大きな傾向の変化は見られませんでした。

これは、市民の皆様がスポーツに求める基本的なニーズや、運動をしたくてもできない理由（仕事や子育ての多忙など）が、依然として継続していることを示しています。

このことは、第1期計画の方向性が、市民の意識と大きく乖離していなかったことがわかったのと同時に、私たちが第2期計画で、特に「働き盛り世代への支援」や「運動を始めるきっかけづくり」といった課題解決に、より一層邁進していくものであることの確信につながっています。

3. 成果指標の達成度

計画に掲げている成果指標数値目標の達成度は、下記のとおりとなっております。

成 果 指 標	進 捗 状 況	
	前回調査の状況 (令和2年度)	今回調査の状況 (令和6年度)
子どもが体育の授業以外で運動やスポーツを週1回以上実施している割合 *1	—	—
健康である・どちらかといえば健康であると感じている人の割合 *2	80%	78%
成人が運動やスポーツを週3回以上実施している割合 *2	34%	41%
散歩やウォーキングなどを行っている人の割合 *2	23%	52%
競技スポーツを行っている人の割合 (スポーツ協会登録会員数) *3	— (2, 152人)	— (2, 352人)
国際・全国大会出場者の拡充 *4	延べ 250個人 延べ 23団体	延べ 566個人 延べ 80団体

*1 「全国学力体力・運動能力、運動習慣等調査」(文部科学省)の設問が変更となったため、数値は不明

*2 「令和6年度運動・スポーツに関するアンケート調査」結果

*3 「令和2年度運動・スポーツに関するアンケート調査」で項目を変更したため、数値は不明のため、参考値としてスポーツ協会の登録会員数で比較

*4 令和6年度全国大会等派遣費補助金交付者数